

第2回 小牧市高齢者保健福祉計画推進委員会 議事録

日 時	平成29年6月30日(金) 13時30分～15時30分
場 所	小牧市役所本庁舎 6階 601会議室
出席者	<p>【委員】(名簿順)</p> <p>岩満 賢次 愛知教育大学准教授 関谷 みのぶ 名古屋経済大学准教授 関本 洋一 小牧市医師会代表 稲垣 喜久治 小牧市社会福祉協議会代表 小栗 佳子 小牧市民生・児童委員連絡協議会代表 大川 眞由美 小牧市介護相談員代表 伊藤 里美 小牧市介護保険サービス事業者連絡会代表 八木 亨 特別養護老人ホーム愛厚ホーム小牧苑長 森 美雪 小牧市ボランティアセンター運営委員会代表 谷 幸男 小牧市身体障害者福祉協会代表 宮越 晴美 小牧市内地域包括支援センター管理者代表 水谷 幸一 連合愛知尾張中地域協議会代表 菅沼 澄雄 小牧市老人クラブ連合会代表 奥野 辰夫 小牧市区長会連合会代表 舟橋 精一 公募委員 真木 和子 公募委員</p> <p>【欠席委員】</p> <p>鈴木 澄 小牧市歯科医師会代表 木全 勝彦 小牧市薬剤師会代表 出口 さとみ 春日井保健所代表</p> <p>【事務局】</p> <p>山田 祥之 健康福祉部 地域福祉担当部長 伊藤 俊幸 健康福祉部次長 江口 幸全 健康福祉部 地域包括ケア推進課長 山本 格史 健康福祉部 長寿・障がい福祉課長 松永 祥司 健康福祉部 介護保険課長 河原 真一 健康福祉部 介護保険課課長補佐 倉知 佐百合 健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係長</p>
傍聴者	0名
配付資料	<p>資料1 委員名簿・配席表 資料2 高齢者保健福祉計画に係る実態調査の結果(冊子) 資料3-1 第6次計画計画期間中の高齢者数等の推移 資料3-2 高齢者保健福祉計画に関する成果指標 資料3-3 給付費の年度別推移 資料3-4 介護保険施設等整備計画進捗状況 資料4 第6次計画の進捗管理シート 資料5 第7次計画の骨子案及び目次構成案 資料6 今後のスケジュール案</p>

1. 開会

(1) 委嘱状交付

(2) 新任委員の紹介

- ・ 資料1に基づき、新任委員から自己紹介。

(3) あいさつ

2. 議題

(1) 第7次小牧市高齢者保健福祉計画に係る実態調査の結果について

- ・ 事務局より、資料2：高齢者保健福祉計画に係る実態調査の結果（冊子）を用いて、説明。
- ・ 質疑、主な意見は以下の通り。

舟橋委員)

- ・ 調査の結果、有意義なデータが得られたと思われる。得られたデータからクロス集計を行うことが出来ないか。もっと分析が必要だと思うがどうか。
- ・ マイノリティ（少数）の意見が埋没してしまっているように思われる。
- ・ 例えば、収入の無い人、一人暮らしの方、サロン参加者など、それぞれの意見を大切にすべきだと考える。

事務局)

- ・ クロス集計のとり方に関するご意見をいただいた。
- ・ 今回の調査結果の集計データについては、クロス集計を含め、今後、計画素案を作成する段階で、絞込み、分析を行わせていただく予定である。

(2) 第6次小牧市高齢者保健福祉計画の進捗状況について

- ・ 事務局より、第6次小牧市高齢者保健福祉計画の進捗状況について、資料3,4を用いて説明。
- ・ 質疑、主な意見は以下の通り。

真木委員)

- ・ P5(3) 元気な高齢者が参加しやすい環境を整備すると目標となっているが、どのようなことを目指しているのか。

事務局)

- ・ 介護保険制度の改正により、サービスの担い手として、地域住民やNPO法人などが期待されているところである。
- ・ 現状として、小牧市では、こうしたサービスなどにはつながっていない状況であるが、こうした部分を含めて、元気高齢者が地域づくりに参加してもらえるような環境づくりを目指すものである。

真木委員)

- ・ そうした活動やサービスが整備されたら、教えて頂きたい。
- ・ 介護ボランティアポイント制度について、予算化し、今年の10月を目処に開始するとなっているが、具体的にはどのような制度になるのか。

事務局)

- ・ まずは、特別養護老人ホームにおいて、65歳以上の方がボランティア活動された場合、その活動に対して、ポイントを付与する制度である。
- ・ そのポイントについては、介護保険料に還元できる仕組みを想定している。

事務局)

- ・ ポイント制度については、3つの仕組みを想定している。一つ目は、介護施設向けのもの、二つ目は、サロンにおけるもの、三つ目は、地域における活動に関するものである。

- ・ 一つ目は、今の説明のとおり介護施設におけるものであり、当初は大規模施設におけるものを予定している。
- ・ 二つ目は、現在、50数箇所設置された地域のサロンにおいて、運営側として活躍していただける方に対するものを予定している。
- ・ 三つ目は、地域ポイントで、これからの大きな課題の一つとして考えているところであるが、地域協議会が市内4箇所設立されたが、地域協議会の中での活動に限定して秋を目処に実施できるようポイントを付与するものである。
- ・ こうした活動については、制度が固まり次第、広報等で周知していく。

真木委員)

- ・ 広報を見る方は良いが、見ない人もいる。見ない方への周知方法についても、検討されたい。

森委員)

- ・ 私は傾聴ボランティアとして、特別養護老人ホームなどにおいて、ボランティアを実施している。仲間の中でも、ポイント制について、疑問の声があがっている。
- ・ 私たちのようなボランティアの意見を聞いてから制度をつくるべきではないか。

真木委員)

- ・ 第1回の委員会でもポイント制については興味があり、質問させていただいた。
- ・ 既にボランティア活動に参加している方は本当に素晴らしいことであり、否定するものではない。
- ・ 無償では嫌だとか、これからボランティアを始めたい方にとって、このポイント制度は、きっかけとなるものであると考え、私は賛成である。

森委員)

- ・ 私たちの仲間は高齢者であり、年金生活をしている。
- ・ そうした中で、活動をする際にガソリン代がかかり大変だとの声があるのも確かである。
- ・ 例えば、貯まったポイントを善意銀行やユニセフなどに寄付できる仕組みがあっても良いかと考える。ボランティアの運営委員会などで、そういったことを話し合ってから開始したほうが良いかと考えるが、どうか。

事務局)

- ・ 地域の支え合いを広げていきたいという趣旨で導入を目指すものであり、ご理解、ご協力をいただきたい。
- ・ ボランティアをされている方の数は、なかなか伸びていかないのが現状である。
- ・ 一方、高齢化が進んでいる。介護人材も限られている状況のなかで、十分なサービスが賄いきれない部分がある。
- ・ そうした状況の中で、地域の支え合いの中で、出来る活動を進めていきたいといったものである。
- ・ 寄付のあり方については、今後、協議させていただく。

舟橋委員)

- ・ P4(1)生涯学習の地域3あい事業の部分で、地域協議会との類似点が多く、見直しが必要とのことであるが、どういうことか。
- ・ 具体的には、どういった整理の仕方を考えているのか。例えば、3あい事業を地域協議会のメニューとしてしまうといったことを想定しているのか。

事務局)

- ・ 市内16小学校区の中で、4つの小学校区で地域のつながりを基にした組織が立ち上がっている。
- ・ 三代交流など交流事業のところで、同じような取り組みをしているという意見を、地域から聞いており、こうした部分について、進めていく中で、整理が必要ではないかと考える。
- ・ 確定ではないが、その手法の一つとして、委員の言われた形もあると思う。

舟橋委員)

- ・ 7次計画期間中に、全ての小学校区において、地域協議会を立ち上げる予定であるのか。

事務局)

- ・ これまで、地域協議会の福祉部会となることを期待し、ご近所福祉ネットワークという住民や団体等の横のつながりづくりを推進している。
- ・ こうしたネットワーク化を意識するなかで、地域の皆さんのお声を聞きながら、関係各課と協議していきたいと思っている。

関谷委員)

- ・ 資料3 高齢者の現状について、平成24年度からの推移が記載されている。
- ・ いずれの圏域でも高齢化率とともに認定率が上がっているが、篠岡圏域だけは、高齢化率が上がり、認定率が下がっている状況にあり、傾向が異なるが、その理由は分かるか。

事務局)

- ・ 篠岡圏域はニュータウンを抱えた地域であり、同時期に入居された方が多い。こうした世帯状況であるなか、要介護認定者率等が一時期であるが減少したものと推測する。

真木委員)

- ・ 年に1度、ひとり暮らし高齢者交流会が開催されており、こうした部分を広げていきたいとの記載があった。
- ・ ラピオの3階が空床であり、こうした部分をサロンなどの活動で利活用するために地域に開放することは出来ないか。
- ・ 私の住んでいる中部圏域には、高齢者が集まれる場所がなく、ラピオの3階を空床のままにしておくのであれば、活用できるとよい。

事務局)

- ・ ラピオについては、6月議会でも議論がされたが、子どもをコンセプトとした拠点となるよう今後、整備していくことになっている。高齢者に関しては、第1老人福祉センターの改築や第3老人福祉センターの整備などを計画していくことになっている。

舟橋委員)

- ・ P6(2) 地域ケア会議の成果、結果、または会議録のようなものはないか。
- ・ P7(1) 個別ケア会議の状況が書いてあるが、介護事業者が行っている個別ケア会議の状況はつかんでいないか。

事務局)

- ・ 地域ケア会議は、各圏域において、地域包括支援センターが主催し、開催されてきた。今年度からは、この会議で整理された課題の解決に向けた具体的な取り組みを実践していくべきとの意見も伺っており、そちらにシフトしていく予定である。
- ・ 具体的には、例えば、味岡圏域では、認知症の方の見守り強化や、事業所連携による見守りの充実に取り組む予定であること、北里圏域では、民生委員が早くから災害時の要支援者台帳を整備されてきており、こうした台帳を活用した地域内の動きを進めていきたいと考えているところである。
- ・ 個別ケア会議は、個別ケースに基づき、個人の課題解決に向けた取り組みや、その地域に必要な資源につなげていくため、実施しているものであり、ちょっとした手助けや移動支援に関する課題が多く寄せられていると聞いている。

舟橋委員)

- ・ ここで言っている個別ケア会議は、ケース検討会議ということか。
- ・ 私も両親の関係で、ケアマネの方が呼びかけケア会議として参加したことがあるが、これとは違うのか。

宮越委員)

- ・ 先ほど、言われたのは、介護保険のサービスを使うにあたって、個人のサービスを調整するための会議であったのではないかと思う。
- ・ 個別の地域ケア会議とは、その方が困っている課題に対して、地域の中で、同じような境遇や課題で困っている方がいるのではないかとの視点で、ご本人の課題の解決と地域課題を整理、解決するためのものである。

舟橋委員)

- ・ P10 家族介護者の支援として、家族の負担を軽減するため、「レスパイト」ということを言われたが、レスパイトというと、短期入所を思い浮かべるが、それ以外では、どのようなことを考えているのか。

事務局)

- ・ レスパイトについては、委員の言われるとおり、短期入所が当てはまると思うが、それ以外に、認知症カフェなど、身近な地域や施設における介護者の家族や本人が行ける居場所を設置することを進めて行きたいと思っている。

舟橋委員)

- ・ 私も当事者の一人として、気になるところである。さまざまな取り組みを推進していただきたい。

(3) 第7次小牧市高齢者保健福祉計画の骨子案について

- ・ 事務局より、第7次小牧市高齢者保健福祉計画の骨子案について、資料5を用いて説明。
- ・ 質疑、主な意見は以下の通り。

小栗委員)

- ・ 資料の真ん中に基本方針として、5つの項目が記載されているが、よく分からない。
- ・ 難しい表現を変更すべきと考えるが、どうか。

事務局)

- ・ 資料に記載している事項については、国が言っているような表現を使っており、市民の皆さんにとって、分かりづらい部分があるのご指摘である。
- ・ 計画の冊子では、第6次計画で設けた重点事業などを設け、分かりやすい表現に努めていきたいと思う。

(4) 今後のスケジュールについて

- ・ 事務局より、今後のスケジュールについて、資料6を用いて説明。
- ・ 次回会議は、10月12日午後で開催で決定。

(5) その他

- ・ 冒頭でご案内のとおり、本委員会は公開となっている。
- ・ 事務局にて、議事録を作成後、委員の皆さまに確認していただき、公開させていただく。

3. 閉会